

事務事業 No./名称	■サービス部門 経企-23 川喜多映画記念館管理運営事業 □支援部門						
主管課	文化人権推進課(文化推進課)		関連課				
分野名	文化						
目標 (目標値)	歴史を継承し、文化を創造するまち						
人口等のデータ	データ区分	23年度	22年度	21年度	備考 ・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	人口	177,204人	177,161人	176,669人			
	世帯数	79,217世帯	78,812世帯	78,131世帯			
運営資源状況	事業の対象者数	18,965人	22,220人				
	決算値(千円)	34,884	34,449	5,890			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	34,884	34,449	5,890			
	人員配置数	0.6	0.6	1.0			
	人件費(千円)	5,256	5,290	9,593			
事務事業運営経費	協働のパートナー						
	総事業費(千円)	40,140	39,739	15,483			
	市民1人当りの経費(円)	227	224	88			
	対象者1人当りの経費(円)	2,117	1,788				
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
来場者数	△	目標値	施設整備完了及び運営準備	来場者を1日あたり60人、年間15,600人	来場者数を1日あたり70人、年間18,200人	来場者数を1日あたり80人、年間20,800人	
		実績値	完了済	来場者を1日あたり75人、年間22,220人	来場者数を1日あたり64人、年間18,965人		

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H23決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒	方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
川喜多映画記念館管理運営事業	34,884千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒	□A	■B	□C □D □E
	事業の概要	指定管理制度により川喜多映画記念館の管理運営を実施。				
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E		
	事業の概要					
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E		
	事業の概要					
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E		
	事業の概要					

事務事業の課題及び取組状況

H23年度の課題	・開館から2年目を迎えた川喜多映画記念館の効率的な運営と文化発信の拠点としての質の高い事業展開が求められる。 ・未完了となっている庭園の整備方針を具体化する。
課題解決のための取組	・鎌倉の新たな文化発信の拠点として、指定管理者により上質な映画の上映、企画展、講演等を実施した。 ・指定管理者と庭園の整備について検討を行った。
未解決の課題	・指定管理者の事業展開に関し、収益性や集客力の向上へ向けた更なる企画の充実を図る必要がある。

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	※□事業完了
				・施設の管理運営を適切に行う。 ・指定管理者と連携し、実施事業の充実による来場者数の増加を図る。 ・記念館庭園の公開について、指定管理者と協議を進める。	 <b>B</b> 文化人権推進課長 青山 陽子

(2面) 個別事業の概要

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	23年度予算	23年度決算値	個別事業の評価結果
川喜多映画記念館管理運営事業	主な個別事業	1397 消耗品費	19	19	■適切 □見直し余地あり
		1397 維持修繕料	500	499	■適切 □見直し余地あり
		1397 備品修繕料	95	46	■適切 □見直し余地あり
		1398 指定管理料	34,320	34,320	■適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり